海洋生物科学技術論と実習II
―微細藻類の観察―

京都大学大学院 農学研究科
応用生物科学専攻

― 微細藻類が注目される理由 ―

古くは･･･

水産学的立場から魚介類の餌生物として、また赤潮の原因生物として注目されてきた。

現在は･･･

有用物質を生産する対象生物に注目が集まっている。

炭化水素を効率よく生成･蓄積する

Aurantiochytrium

プランクトン（Plankton）

- 遊泳力が全くないか，あっても大変小さいため，水のまにまに漂って生きる生物。この名は，1887年ドイツの V. Hensen が創り，日本では1900年に岡村金太郎によって「浮游生物」と訳された。

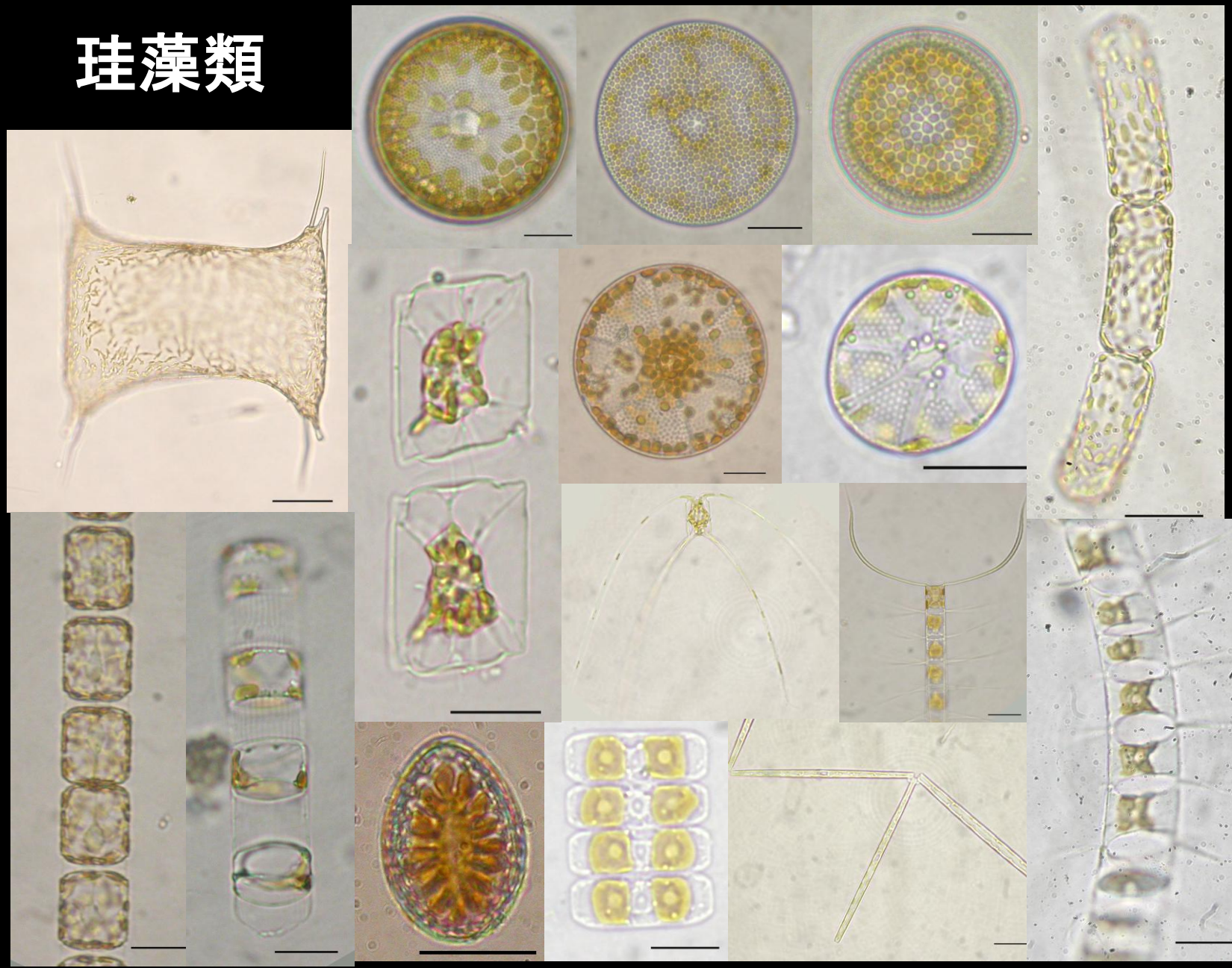
実習内容－微細藻類の観察－

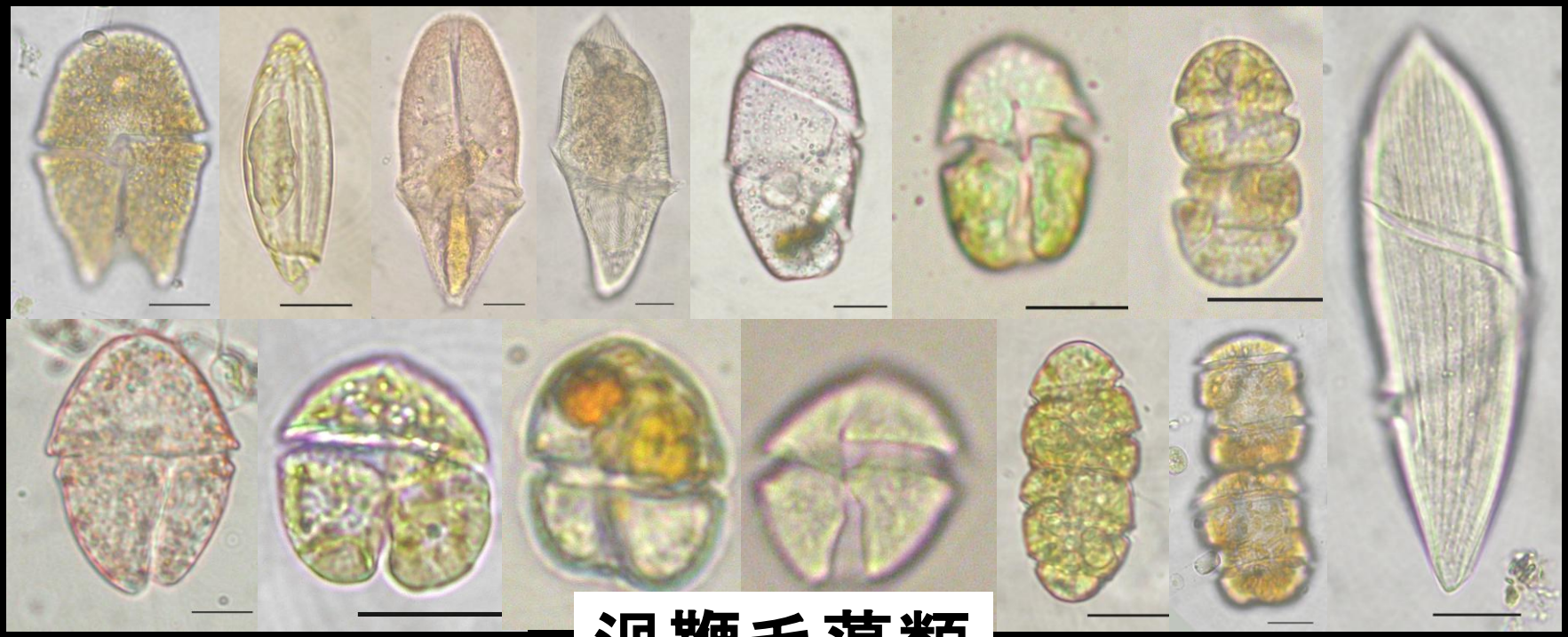
浮遊性微細藻類の観察とスケッチ

- 実験所前桟橋よりプランクトンネット（目合い20μm）の鉛直引きによる試料採取
- 顕微鏡観察による種同定とスケッチ

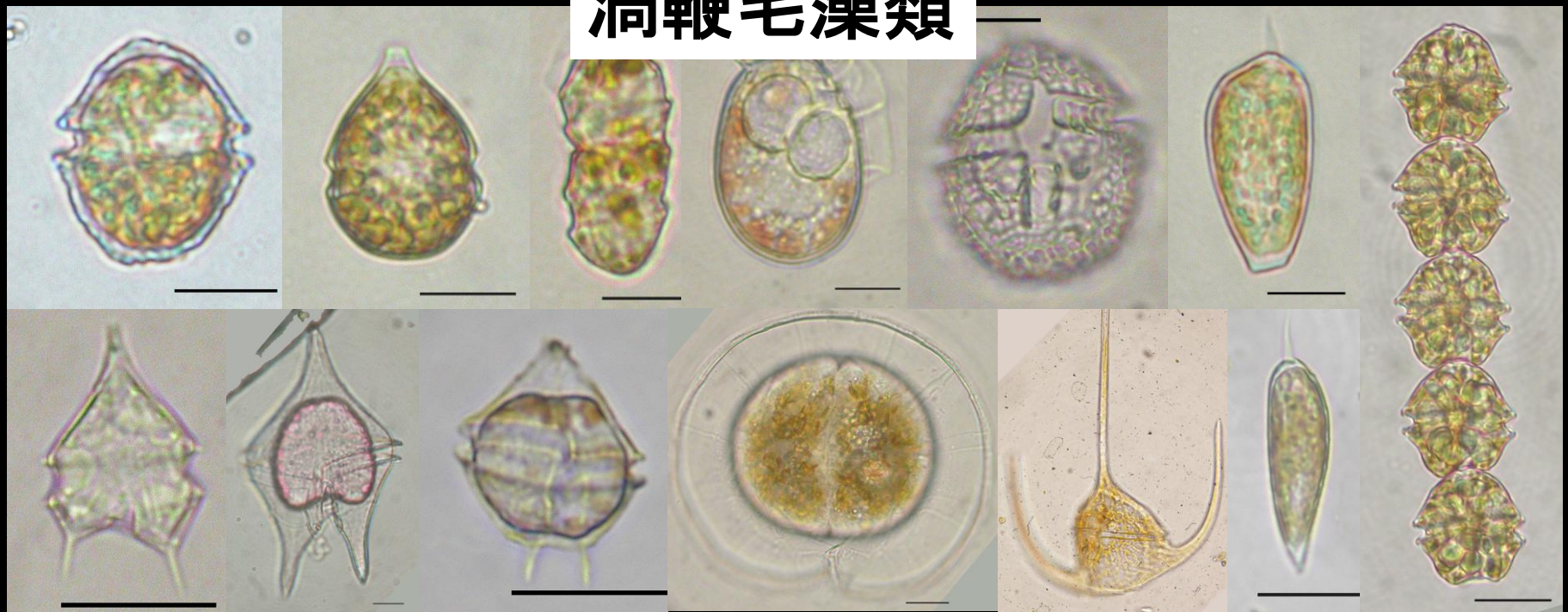
＊　5種類以上の微細藻類を種同定し、スケッチしてください。

珪藻類

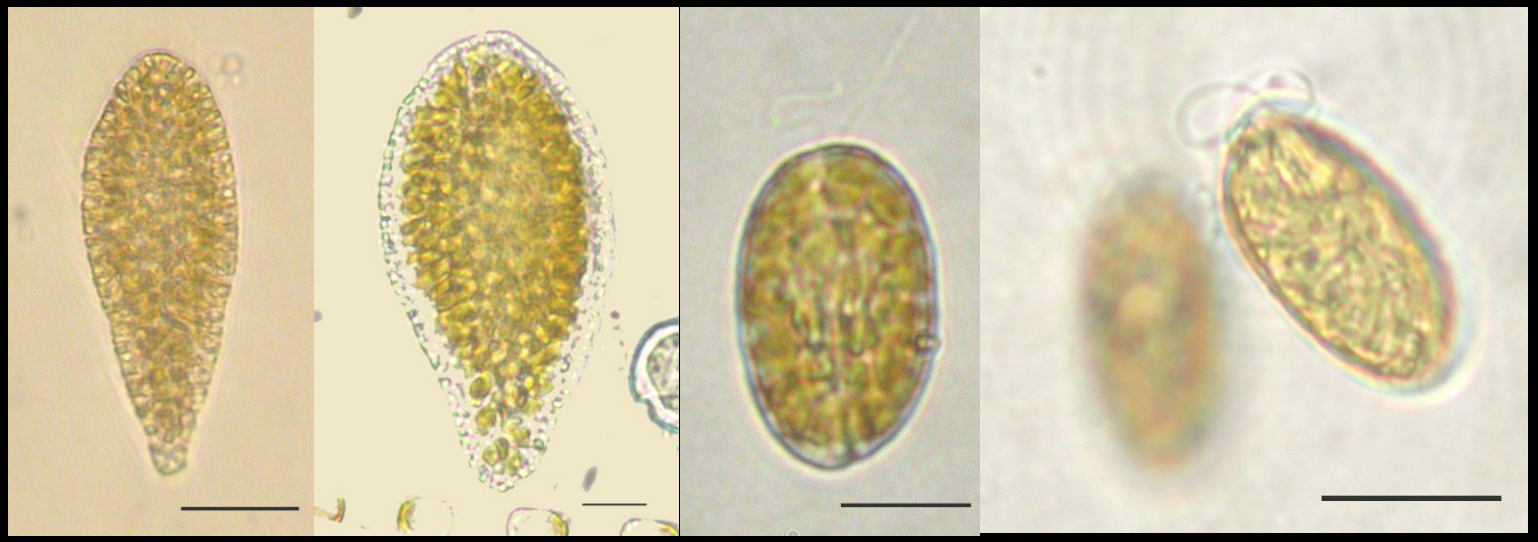


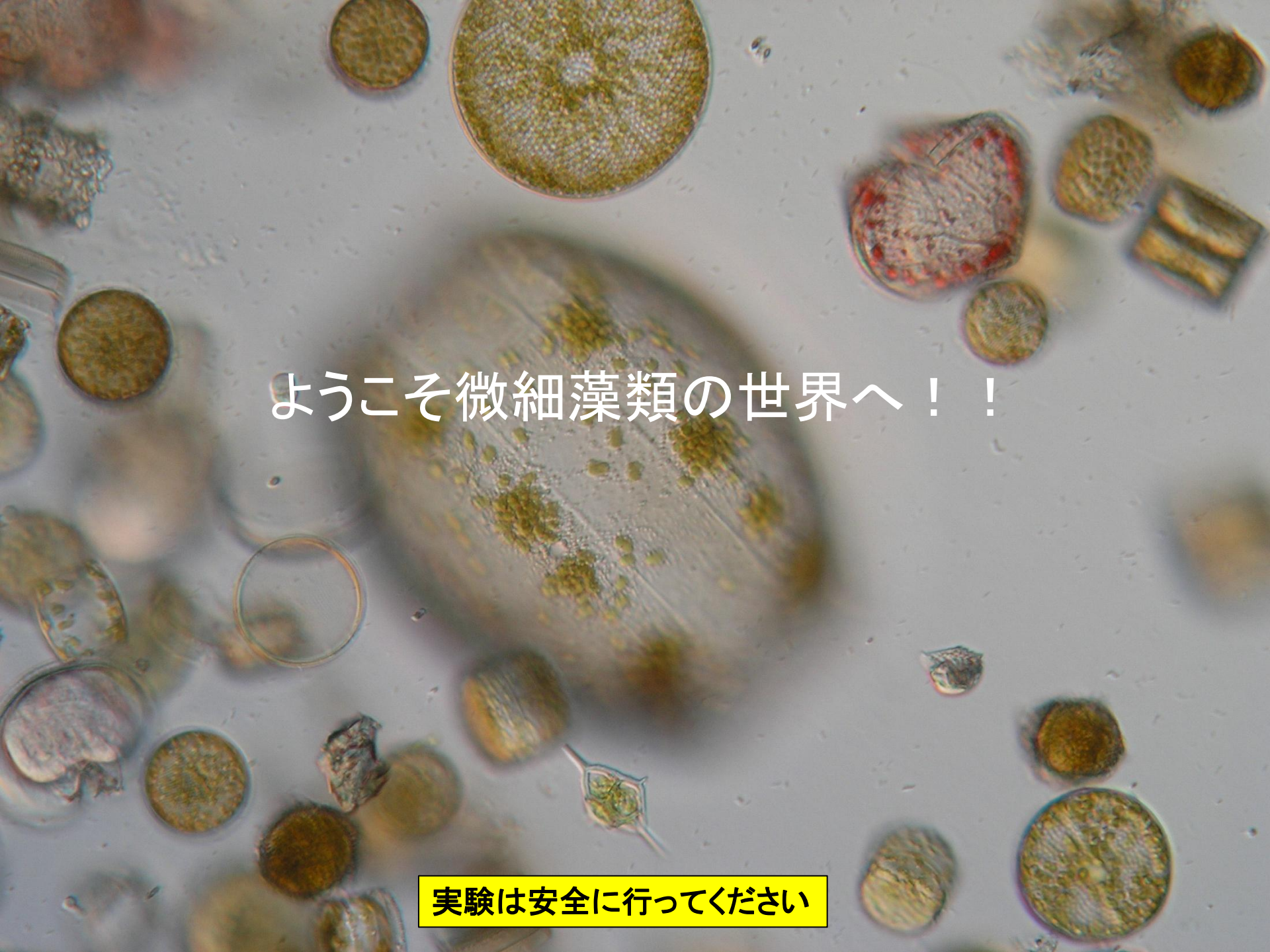


渦鞭毛藻類



ラフィド藻類




ようこそ微細藻類の世界へ！！
実験は安全に行ってください